

# 月刊島民

中之島

Vol.81 2015 4/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島を描く。

4/24～29 @中之島パルクス  
特別展「中之島を描く」&  
特別講座も開催!



ナカノシマ大学

「中之島バラ園の  
歩き方」  
小山内 健

申し込み受付中!

# 中之島を描く。

文／菅谷富夫（大阪新美術館建設準備室研究主幹）

中之島は絵画作品や芸術活動と縁が深い街である。風景をモチーフに数多くの作品が描かれ、またそれらの発表の場としての役割も果たしてきた。中之島を描いた代表的な作品と発信拠点となった場所を挙げながら、中之島と「描くこと／表現すること」の関係史を探ってみる。

小出檜重と佐伯祐三は大阪が誇る日本を代表する洋画家である。

小出は明治20年（1887）に生まれて昭和6年（1931）に亡くなっている。一方、佐伯は明治31年（1898）生まれで昭和3年（1928）に亡くなった。小出の方が約10歳年上ではあるが、画家としてのデビューが遅かったため、ふたりが活躍した時代は1920年代と一致している。だからといって、小出と佐伯の美術に対する姿勢や画風が同じ方向を向いていたわけではなかった。中之島を通過したふたりの画家を紹介する。

## 小出檜重の模索が垣間見える『街景』。

小出檜重『街景』は大正14年（1925）に大江橋付近のビルの上から西に向かって中之島を描いたものである。



『街景』(1925年／画像提供:ギャラリー新居)

# 〈I 大大阪時代〉 小出檜重と



## Koide Narashige

こいで・ならしげ(1887～1931) 1919年に自分と家族を描いた『Nの家族』が樗牛賞を受賞し、画壇の注目の的になる。フランスから帰国後の1924年、大阪で信濃橋洋画研究所を創設。東京美術学校(現在の東京藝術大学)時代の試行錯誤が見られる『銀扇』、晩年に熱中した裸婦モチーフの代表作『裸女の3』が有名。



左／『裸女の3』(1929年) 右／『銀扇』(1914年)  
共に大阪新美術館建設準備室蔵

大阪ミナミは島之内の大きな薬屋の息子として生まれ育った小出は、東京美術学校を卒業して大阪に帰ってきたが、大正8年（1919）に二科会で受賞するまでの5年間を、無名の画家として過ごしてきた。しかし翌年には最高賞である二科賞を受賞し、新進作家としての地位を不動のものとした。

大正10年（1921）から翌年にかけて半年ほどのフランス遊学で、「フランスには油絵はどっさりあるが芸術は無いと言ってもよさそうだ」と確信した小出は、フランス絵画を冷静に観察し学びながら、自らが立脚する近代の大阪という地で描く油絵を確立しようとして格闘していた。

そんな時期の大正14年（1925）に、この『街景』は描かれた。まず目に入るのは手前の堂々とした近代ビル



左/「レ・ジュ・ド・ノエル」(1925年) 右/「汽船」(1926年)  
共に大阪新美術館建設準備室蔵



一時帰国中に描かれた  
佐伯祐三『肥後橋風景』。

それに対してその翌年に描かれた佐伯祐三の『肥後橋風景』は、大胆な筆の丸屋根と右に続く落ち着いた赤の線と黒で描かれた屋根。画面左下から中央に位置する川が視線を上の方の大阪ビルディングや紫がかつた空へと導く。川の色も空の色も幾重にも絵具を塗り重ねてつくられた深みのある色である。また船のたてる白波や煙突の煙が画面に躍動感を与えている。



「肥後橋風景」(1926年/朝日新聞社蔵)

# 佐伯祐三。

中之島の風景を描いた作品から



## Saeki Yuzo

さえき・ゆうぞう(1898~1928) 旧制北野中学在学中に赤松麟作の画塾に通い、東京美術学校進学後は日本洋画壇の中心的存在だった藤島武二に師事。代表作に、創作の場を求めて渡ったパリの街角を表現した「レ・ジュ・ド・ノエル」、帰国後に通った安治川沿いの川口を描いた「汽船」などが挙げられる。(写真提供/大阪新美術館建設準備室)

遣いが印象的な作品である。画面左に朝日新聞の白い社屋を配置し、そこから右に中之島の近代建築を並べ、それによって画面を空と川に分けている。直線を強調して描かれた朝日新聞社屋や、青を基調にした空と白く波打つ川面が佐伯らしいスピード感のある筆致で塗り重ねられている。

北区中津の光徳寺という名刹に生まれ、旧制北野中学、東京美術学校と進学した佐伯は、卒業するとすぐにパリに渡った。大正13年(1924)から2年間滞在し、大正15年3月に一時的帰国。その11月頃にこの作品を描いたと言われている。パリの街のマチエールともいべき建物の表情に制作の重要なインスピレーションを求めた佐伯にとつて、日本の風景の中にそれを求めた時、この中之島のビル群は多少の慰めになったかもしれない。

年齢的に小出より一代若い佐伯にとつて、より新しい時代の代表的作家であるヴラマンクやユトリロの影響を受けながらパリの中で自らの絵画を求め続けることは自然なことであり、翌年夏には待ちかねたようにパリに戻り、そのまま文字通り帰らぬ人となった。彼らはともに西洋絵画をいかにして自らのものにしよるかと模索していた。そのふたりの画家の姿は、ほぼ同時期にここ中之島で交差し、これらの作品に刻印されたのであった。

小出楯重や佐伯祐三に限らず、中之島の風景は多くの画家によって描かれてきた。時代とともに近代化してきたその景観は、日本近代洋画の発展の歴史と重ねて見ることもさへ可能かもしれない。しかし、第2次大戦後、中之島を描いた



河井達海「燈ともる中之島」(1959年／大阪新美術館建設準備室蔵)。描かれた時期からして、朝日放送はできたばかりのニュース性の高い建物だった。

## 前衛芸術の拠点が中之島にあった。

しかし、中之島が美術と無縁になっ

たというわけではない。中之島は昭和の初めから文化・芸術のセンター機能をもっていた。朝日新聞が経営した朝日会館である。大正15年(1926)にオープンし、戦後の昭和37年(1962)まで存在した。

コンサートホールや展示ギャラリー

などがあり、海外からの音楽家や重要な展覧会も開かれてきた。佐伯祐三作品も没後の昭和4年(1929)、所属した1930年協会の第4回洋画展覧会の中で展示されている。またその前年、のちに具体美術協会のリーダーとなる吉原治良も、関西学院を卒業し吉原定次郎商店(のちの吉原製油)に入社した直後に、新人としては異例ともいえる初個展をここで開催している。

吉原は朝日会館が閉館した同じ年の昭和37年(1962)、同じ中之島3

「ABC」のネオンを屋上に付けたビルディングが川面に映っている姿が描かれている。しかしその建物のかたちは大胆な筆致による絵具の集積として描かれており、風景画ではあるが抽象化されているといえよう。

## 〈Ⅱ戦後／現代〉

# 描かれる街から

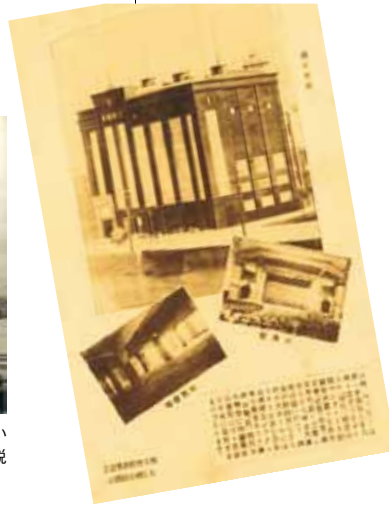
## 「印象派」の作品をパリからもたらした船場の「ぼんち」。

大正末から昭和にかけて、大阪からは小出楯重や佐伯祐三だけではなく多くの画家がパリに留学している。もちろん彼らは裕福な家の子息であり、芸術の都パリへの熱い思いがあったのは事実である。しかしそればかりでなく、第1次世界大戦後のバブルのような好景気と通貨「円」に対する「フラン」安といった好条件が彼らを支えていたのも、また事実である。

作家はパリに渡ったが、逆にマネやマチスははじめ印象派や後期印象派の作品も多く大阪にもたらされている。それを持ってきたのは大阪の船場を中心として商家の跡取りたちであった。当時成人し家業を継承する際に数カ月から二年近く、ヨーロッパの業界視察や取引先へのあいさつを兼ねて渡欧することがよく行われていた。その際にまだ安かった印象派などの作品を買い求めてきた者たちがいたのである。なかでも有名なコレクターとして、老舗の鉄商「岸本商店」の5代目岸本吉左衛門をあげることができる。江戸時代から続く船場の鉄問屋であり製鉄業を営んだ家に生まれた岸本は、大正8年(1919)に数週間パリに滞在し、その際にピサロ、マネ、セザンヌ、ルノワールなどの水彩を含む絵画18点とロダンの素描67点と彫刻3点を購入している。彼らの集めた作品は、その後ほとんど散逸してしまっただが、現在では各地の美術館に収まり見ることのできる作品も数多い。



戦前の絵葉書より。朝日会館は新聞用のインクで塗ったという黒い外壁や、エジプト風の装飾など、アートの発信拠点にふさわしい先鋭的な外観だった。(写真提供／大阪市立中央図書館)



丁目に具体美術協会の拠点となる展示施設「グタイピナコテカ」を開設している。かつての吉原定次郎商店の土蔵を改造したもので、具体美術協会の会員の展覧会を開催するだけでなく、同時代の海外作家の展覧会も開催し国内外の作家も多く訪れるなど、さながら大阪における現代美術のセンターの役割を果たしていた。

# 発表の場へ。

朝日会館、グタイピナコテカ  
そして新美術館

## 「美術アイランド」の顔。

その後も中之島には一時期、住友中之島ビル内に大阪府立現代美術センターが開設され、府の所蔵作品の公開や市民の作品発表の場となった。その機能の一部は大阪府立江之子島文化芸術創造センターに引き継がれている。

2004年11月には中之島4丁目、千里から国立国際美術館が移転オープンした。いうまでもなく国立の美術館であり、特に現代美術の展示には定評のあるところである。2010年には中之島デザインミュージアム「de:sign de:」(P.8)もオープン。また美術館としては、国立国際美術館の北隣(かつての大阪大学医学部跡地)に大阪市の新しい美術館が2020年度までにオープンの予定で準備が進められている。

このように戦前戦後の100年近く、中之島は絵画に描かれ、またその発表の場となってきた。大阪のビジネスセンターであり情報発信拠点である中之島は、同時に美術アイランドとしての顔をもち続けているのである。



中之島4丁目の大阪新美術館建設予定地。奥に見える国立国際美術館や大阪市立科学館と並んで、新たなミュージアムが建つ日を楽しみに待とう。



グタイピナコテカは現在は三井ガーデンホテルプレミアが建つ場所にあった。昭和45年(1970)に閉鎖された後も、規模を縮小した「グタイミニピナコテカ」を開設し、具体美術教会は中之島を拠点に活動を続けようとした。右はその最終展の案内。(写真提供／大阪新美術館建設準備室)



すがや・とおみ 1958年生まれ。明治大学大学院博士課程前期修了。1992年より、中之島4丁目に建設予定の新美術館の業務に関わる。専門は近代デザイン史、現代美術評論。大阪にまつわる作家や作品についても精通している。リーガロイヤルホテルの広報誌「The ROYAL」にて、大阪新美術館のコレクションから厳選した作品を紹介する「ザ・中之島コレクション」を連載中。

### Information

大阪新美術館のコレクションはウェブサイトでも発信中。今回取り上げた佐伯祐三やグタイピナコテカをはじめ、数多くの作品を見られる充実の内容で、大阪の絵画史を学ぶことができる。  
<http://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu120/artrip/>

# 私たちは中之島をどう描くのか？

今月号でもお送りしているように、数々の画家たちが中之島をテーマに作品を残してきた。そして2015年、特別展「中之島を描く」が開催される。月刊島民の創刊7周年企画でもあるこの絵画展に出展する二人の画家を、出品作の一部と共にご紹介しよう。

取材・文／大迫力(本誌)



## 奈路道程

Naro Michinori

「80回描いてきたからこそ、  
今まで描かれたことのない中之島を」



### 「筑前橋からの眺め」

(F6キャンバスにアクリル)

土佐堀川にかかる筑前橋から東を眺めると、川沿いに背の低いビルが建ち並んでいる。このあたりは川幅が狭く、川はS字を描くようにうねっている。阪神高速の高架がちらりと見え、その奥には中之島フェスティバルタワーと建設中のフェスティバルタワー・ウエストも描かれている。

### 「肥後橋からの眺め」

(紙にアクリル／230×285mm)

「筑前橋からの眺め」と同じ場所を反対側から見渡している。曇天のような雰囲気は、橋のすぐ上を高速道路が通っていて、その影になっているからだろうか。ちなみに今月号の月刊島民の表紙はこの絵がモチーフになっている。



2008年8月創刊の月刊島民は、これまで足かけ8年で81冊を発行した。そのすべての表紙画を手がけたのが奈路道程さんだ。言い換えれば81回も中之島に関わるものを描いてきたということになるが、だからこそ奈路さんは「今まで描いたことのない風景」をテーマに、描きたいものを探した。

筑前橋からの眺めでは、土佐堀川にかかる筑前橋から東を望んだ。「中之島」というと、公園や遊歩道の緑が描き込まれていたり、空の広さが強調されることが多い。でもここは違う。川はコンクリートの堤防に囲まれているし、ビルが張り付くように建っていて不思議な感じがしました。

土佐堀川は肥後橋を境に少し南へ向かう。そのため川の奥にビルが建っているように見える。同じく肥後橋からの眺めでも、一見中之島とは思えないような風景が描かれている。

わざと奇をてらったわけではないというが、これまでの描いてきた経験が、奈路さんに新しい発見をさせたことは間違いないだろう。どんな風景が発見されたのか、展覧会でじっくりと見てほしい。

なるみちのり 1964年高知県生まれ、制作社勤務を経てフリー。1994年度朝日広告賞1部イラスト賞受賞。この頃から雑誌 Meets Regional(京阪神エルマガジン社)など雑誌の表紙画・挿絵を手がける。毎日新聞夕刊の月1回連載「濃い味、うす味、街のあじ」(江弘毅)の挿絵も担当。

特別展@中之島バンクス  
「中之島を描く」開催間近!

# そして、現代の画家



## 「遠景、中之島」

(紙にインク/770×570mm)  
手前に見える天神橋や、高速道路、ビル、大阪市中央公会堂など、中之島を構成するシンボリックな要素が折り重なるように描かれる。

## 「淀屋橋と日銀、かき料理屋」

(紙にインク、水彩/770×570mm)  
アクアライナーの乗船場から見た風景。淀屋橋を中央に、左手前が牡蠣鍋の[かき広]、右奥が日銀大阪支店。その対比がなんとも面白い。



## 「渡辺橋、夜景」(紙にインク、水彩/770×570mm)

堂島川にかかる渡辺橋から東を望む。画面右端には中之島フェスティバルタワー、左の背の高いビルは竣工間もない新ダイビル。



## 河田潤一

Kawata Junichi

「どこを描くかより、  
描きたいかどうか。  
中之島の場合は  
やっぱり『水』やな、と」

モードなタッチで描かれた街と人や明るい色遣いに、見覚えのある人も多いかもしれない。現在進められている大阪市営地下鉄のトイレのリニューアルに際して、河田潤一さんの絵が設置されている。大阪の街を人が行き交う賑やかな様子や、動物モチーフの可愛らしい絵など、駅ごとに少しずつパターンが違う。公共交通のトイレにこうした絵が設置されるのはあまり例がないという。

その河田さんが展覧会「中之島を描く」に参加する。風景、それも「駅や人が集まる場所のくちやくちやっとした感じ」を描くのが好きだったという河田さんは、今回あらためて中之島を歩き、船に乗ってみた。そしてあらためて実感したのが、「やっぱり『水』やな」ということだった。

淀屋橋と御堂筋を絵画ならではの構図で切り取った淀屋橋や、その淀屋橋を挟んで牡蠣船と日銀が描かれた日銀と淀屋橋、車と人の列の奥に川の流れが覗く渡辺橋など。人の声や街の喧騒が聞こえてきそうなポップで勢いのある現代の中之島の風景にも、しつかり水は描き込まれているのだった。

かわた・じゅんいち 1964年大阪生まれ。1998年、マサード・カデミー・オブ・アートで学ぶ。ポップなタッチであらゆるモチーフを描き、個展「ライブ・ペインティング」など、幅広く活動。近年は、大阪市営地下鉄構内トイレのリニューアルに伴い、作品が設置されている。

月刊島民創刊7周年特別展

# 「中之島を描く」奈路道程 河田潤一

4/24(金)—29(水・祝) @中之島デザインミュージアム de sign de >

大阪の文化・経済・行政の中心である中之島は、2つの川と名だたる橋、それらと見事に調和する名建築物が「絵になる風景」を創りあげ、多くの画家たちによって描かれてきた。古くは近世の『浪花百景』、大大阪時代には佐伯祐三、小出楯重らが中之島をテーマにいくつもの名作を残してきた。そうした大阪が誇る「景観的財産」である中之島を現代の画家二人はどのように描いたのか。堂島川沿いのアートスペース「中之島バンクス」に、2015年の中之島を描いた作品が集う。



「筑前橋からの眺め」  
奈路道程



「遠景、中之島」  
河田潤一



「淀屋橋、紅葉」  
河田潤一



「肥後橋からの眺め」  
奈路道程



● 奈路道程さんの表紙画をデザインした月刊島民オリジナルグッズも会場で販売します！

月刊島民創刊7周年特別展「中之島を描く」

期間／4月24日(金)～29日(水・祝) 時間／11:00AM～7:00PM

会場／中之島デザインミュージアム de sign de > (京阪電車中之島駅上・中之島バンクス内) 入場料／無料

主催／月刊島民プレス 特別協力／中之島デザインミュージアム de sign de > 協力(申請中)／大阪新美術館建設準備室

## 展覧会初日にはナカノシマ大学特別講座も！

展覧会初日の4月24日(金)には、今月号の特集執筆者である大阪新美術館建設準備室研究主幹の菅谷富夫さんを講師に迎え、ナカノシマ大学特別講義「描かれた中之島」を開催。中之島を描いた近世～近代および現代の作品を紹介しながら、大阪や日本の絵画史を探っていく。また、展覧会の出展者である奈路・河田両氏や中之島バンクスを運営する松原真由美さんにも話を聞きながら、今回の展覧会の見どころもガイド。絵になる街・中之島を存分に味わう機会だ。

ナカノシマ大学特別講義「描かれた中之島」

日時／4月24日(金)7:00PM～8:30PM

会場／中之島デザインミュージアム de sign de >

講師／菅谷富夫(大阪新美術館建設準備室研究主幹)

入場料／1,500円 定員／60名

◎お申し込みはナカノシマ大学webサイトなどから！

詳しくはP10の募集要項をご覧ください。



キーパーソンが中之島の近未来を語る

# 中之島Next

ネクスト

No.01



竹村 徹さん(中之島まつり実行委員)

## 市民まつりの草分け「中之島まつり」の未来像。

毎年5月の大型連休中に中之島公園で繰り広げられる「中之島まつり」。長く運営に携わる竹村徹さんに、これまでとこれからを語ってもらった。

### 中之島で起こった 景観保存運動がきっかけ。

中之島まつりは昭和46年(1971)に大阪市が発表した「中之島東部地区再開発構想」が発端です。これは大阪市庁舎や大阪市中央公会堂、大阪府立中之島図書館といった建造物を一斉に取り壊し、跡地に高層ビルを建てるというものでした。それに反対の声を挙げたのが若手の建築家たち。しかし、なかなか盛り上がりませんでした。そこで川の流れと公園の緑、そして



昭和61年(1986)の第15回から運営に関わる竹村さんは、イベント全体を裏方として支える。現在は戎橋筋商店街振興組合事務局次長も務めている。

名建築の赤煉瓦が調和する風景の特別感を知ってもらおうと、市民に足を運んでもらえるイベントを開催することになったのです。

景観保存に対しては一定の役割を果たし、まつりを開催する意味合いも変化してきました。自分たちでまつりをつくり上げるのが楽しいという人々が集まり、参加したいという団体も増えてきました。中之島まつりを媒介に、年齢も職種も住む場所もさまざまな人々が集まり、新しいコミュニティが生まれています。イベント当日だけではなく、その過程にある白熱した議論の場にも大きな意味があるんです。

### 広がっていく 「中之島まつリズム」。

いよいよ50回目の開催が見えてきました。やはり企画の定番化や資金調達は永遠の課題。来場者の高齢化が進めば「ここにテントを張って日陰とベンチをつくろう」といったことが必要になります。中之島界隈の企業にも積極的に協力していただければ、中身の充実につなげることができます。

ただ、規模の拡大だけが必ずしもベストではありません。剣先公園で開催していた「手作り遊園地」は、昨年から中央公会堂前に移転しました。どうしても、終了後に芝生が傷んでしまうため、そのことへの配慮です。規模は縮小しましたが、変化した街との共存には必要なこと。

私に関わっている戎橋筋商店街を始め、中之島まつりを支えてきたコミュニティや



人力で動かす名物「手作り遊園地」は、子どもたちに大人気。楽しさと安全性の両立を一番に考える。



今年の第44回も5月3日(日・祝)～5日(火・祝)まで開催。来場はもちろん、ボランティアスタッフも募集中。一緒に盛り上げたい人は実行委員会宛にメールで連絡を。nvs@nakanoshima.net

価値観を取り入れている場所は増えてきています。「こいや祭り」に「神戸よさこいまつり」、「彦八まつり」など、中之島まつりのスタッフが助言やお手伝いしているイベントもある。中之島まつりのDNAが受け継がれることを願っています。

この記事の全文は「中之島Days」  
ウェブサイトで読むことができます。



中之島の暮らしを  
歴史・現在・未来から知るための情報サイト

# 中之島 Days

デイズ

<http://nakanoshimadays.com/>

月刊島民&  
大阪スケジュールの  
コラボで発信!



ケータイ&  
スマホからはこちら!



もうすぐ見頃を  
迎えます

2015年5月講座

「ローズソムリエが指南する  
中之島バラ園の歩き方」

講師／小山内 健  
(京阪園芸・バラ鑑定士)

中之島バラ園のバラと、  
その鑑賞法を徹底解説！

初夏の楽しみのひとつが、中之島公園のバラ園に咲き誇るバラの花。月刊島民でも昨年5月号で大特集した。中之島バラ園は昭和55年（1980）に完成し、2009年のリニューアルを経て現在の姿になった。そのリニューアルの際のキーパーソンとなったローズソムリエこと京阪園芸の小山内健さんが、バラ園の鑑賞法を解説してくれる。

中之島に咲く約310品種・3,700株のバラは、色も形も大きさも香りも、一つ一つに個性がある。また、リニューアルの際は中之島の立地に合わせ、公園の造成においてさまざまな工夫が施されている。バラの花だけでなく、バラ園の見方も知ること、バラ園散策がよりいっそう楽しくなるはずだ。

今までは「きれい」という感想だけだったあなたも、バラの奥深い魅力に開眼するかもしれない。お気に入りのバラが見つかる方法をローズソムリエに御指南いただく。

◎今月の授業

【バラ】



バラは見る人それぞれの  
思いで楽しんでいい。  
好きな花を見て、触れて、学ぶ。  
それができるのが  
中之島公園のバラ園なんです



小山内 健  
バラの栽培や品種の鑑定などに携わる京阪園芸のバラのスペシャリスト。NHK「趣味の園芸」をはじめとするテレビ出演や講演会、執筆活動など多彩に活躍。

募集要項	<p>「ローズソムリエが指南する 中之島バラ園の歩き方」</p> <p>日時／2015年5月19日(火) 7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～)</p> <p>会場／北浜フォーラム(大阪証券取引所ビル3階) 受講料／2,500円(中之島バラ園ミニガイドブック付き)</p> <p>定員／100名 主催／ナカノシマ大学事務局 協力／京阪園芸</p>	<p>お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、FAX、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。</p> <p>〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学5月講座」受付係 FAX.06-4799-1341</p> <p>※先着順で受付後、4月20日前後より受講票を発送します。 ※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。</p>
------	---	---

ナカノシマ大学の最新情報は  
<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは  
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340  
(ナカノシマ大学事務局)

# 笑う落語の大阪 第十三回 高島幸次

前回「花見」の項で採り上げた大阪（上方）落語の『貧乏花見』は、東京（江戸）落語に移されると「長屋の花見」になる。

『貧乏花見』では、朝の雨があがったあと、仕事に溢れた長屋の連中が誰からともなく花見に行こうと言いだし、お酒はお茶け、蒲鉾は釜底の焦げ飯というような代用品の持ち寄りで弁当を用意する。

しかし「長屋の花見」では、大家が代用品の弁当を準備して、長屋の連中在花見に連れ出す。そして連中に、都々逸を唄え、俳句を作れ、景気よく酔っ払えと、命令口調だ。

大阪では和氣講議の長屋共同体なのに、東京に移ると大家が無理強いる縦社会に変えられるのだ。似たような変化は、大阪の『時うどん』を東京に移した『時そば』にも窺える。

『時うどん』では、遊郭を冷やかした帰りの二人連れが、浮かれた気分であらゆる屋に立ち寄り、兄貴分は、うどん屋の勘違いを利用して一文を得る。それを面白がった弟分は、

翌日にその再現を試みる。

ところが『時そば』になると、男Aがそば代を誤魔化すところを隠れていた男Bが、「狡賢い奴だ」といいながら、翌日に自身も真似をする。こちらは詐欺の連鎖だ。

大阪から東京に移されると、和氣講議の横社会が、無理強いの縦社会に変化し、遊郭帰りの遊び心が、詐欺の口口に変わるのだ。

## 騙しの縦社会と、遊びの横社会。

のだからか、それとも、東西の笑いのツボの違いなのだろうか。あるいは、このような視点で東西の差異をとらえるのは、大阪人の東京コンプレックスのせいだと反論されるかもしれない。

それでも敢えて言おう。大阪落語のままのほうが面白いのにな。  
4月天神寄席のゲストは、江戸時代の長屋を再現された今昔館の谷直樹館長です。  
たかしまこうじ  
大阪大学招聘教授、追手門学院客員教授、大阪天満宮文化研究所研究員などを務める。

## 狭くも濃い生活空間をのぞける4月席。

天満天神繁昌亭では、土地を提供している大阪天満宮に敬意を表し、毎月25日の夜席を「天神寄席」と銘打ち、さまざまな企画を開催している。4月には、江戸時代の町人や職人が暮らす「長屋」に着目。  
ご近所付き合いがものを言う集合住宅を舞台にしたネタが披露される。また、同日から「大阪くらしの今昔館」で始まる特別展を記念し、鼎談ゲストには、江戸時代の生活に詳しい谷直樹館長が登場する。

●4月のお題は「長屋の生活」

4月25日(土)

## 「落語長屋の暮らこ」

- 落語／桂米輝「つる」
- 笑福亭銀瓶「書割盗人」
- 笑福亭枝鶴「竹の水仙」
- 桂米二「貧乏花見」
- 桂雀三郎「宿替え」
- 鼎談／大阪今昔よもやま噺

朝の連続テレビ小説「ごちそうさん」で時代考証も手がけた、谷直樹館長がゲスト。

谷直樹（大阪くらしの今昔館 館長）  
高島幸次（大阪天満宮文化研究所）  
桂春之輔

## ナカノシマ大学で前売り券を買うとお得！

「天神寄席の前売チケットをナカノシマ大学で買うと、1800円で入場できます。いつものナカノシマ大学と同じくウェブ、ハガキ、FAXでお申し込みを受付中。

- 開催日／4月25日(土)
- 開場時間／6:00PM（開場5:30PM）／受付開始5:15PM（）
- 受講料／1800円（通常…前売2000円／当日2500円）
- 支払い方法／当日、現地にて精算
- 販売期間／4月24日(金)7:00PMまで
- ※ナカノシマ大学で販売するチケットは前売り券のみです。当日券の販売はありません。
- 申し込み方法はP10を参照してください。
- 問い合わせ ☎06-4799-1340（平日10:00AM～7:00PM）



桂雀三郎師匠の「宿替え」は、とある夫婦のドタバタ引越劇が笑いを誘う。

イラスト／フジワラトモコ

# 今月のテーマ【コーヒーカウンター】

バリスタ&ドリッパーが差し出してくれる、通勤前や昼休みの至高の一杯。中之島界隈も名コーヒー店が増え、表情もバラエティ豊かになった。

取材・文／江口由夏 写真／中尾あづさ



審査員／小川 清さん

瓦町にある老舗喫茶店[平岡珈琲店]の3代目マスター。昔ながらの「ポイリング法」で丁寧に煎れたコーヒーや名物のドーナツは、島民にもおなじみの味。大阪・船場の歴史にも詳しい。  
[平岡珈琲店] ☎06-6231-6020



とびきりの笑顔で  
お迎えします！

## ブルックリン・ロースティング・カンパニー 梶井沙緒里さん

以前は中之島界隈にあるコーヒーのチェーン店で働いていて、北浜にこの店がオープンしてファンになり、昨年の10月からスタッフに仲間入りしました。先輩スタッフが勉強熱心なので、日々吸収することだけで楽しいですね。カウンターに立ってみると、店が掲載された雑誌を持参してくれたり、遠方から足を運んでいただいた方が声をかけてくれたりするんです。海外の方も多くてびっくり。おしゃれなお客さんばかりだから、私も頑張らない!



弾けるような笑顔、少年のような身のこなし…お店のポップな空気感にびたりとはまっていますね。こちらのお店はシアトル系のカフェと違い、カラフルでおしゃれ。でも、全体としてはシンプルで、ちゃんとツボを押さえています。

## ピーク・ロースト・コーヒー 宇野弘規さん

塚筋本町の純喫茶を経て、念願の自家焙煎珈琲店をオープンして2周年。都心部で焙煎機を置くのはなかなか難しいのに、まさかオフィス街の道修町でオープンできるとは、御堂筋側から店ののぼりが見えるところが、気に入っています。場所柄、コーヒーマスターとして豆を厳選したスペシャルティコーヒー目当てのスーツ姿のお客さんが多いですが、フレンチトーストやパンケーキなどのスイーツメニューもあり、女性にも人気ですよ。



カフェというよりバーテンダーのイメージですね。同業者としては、後ろにちらっと写っている焙煎機が気になる。店の佇まいにもマスターにも、生真面目でいさかも手順をおろそかにしない、焙煎士の確かな覚悟が感じられます。



制服を着ると、  
背筋が伸びます。



お気に入りの豆を  
見つけてください。

## タカムラ ワイン&コーヒー ロースターズ 藤山博康さん

福岡の焙煎会社から、昨年夏にバリスタとして入社しました。もともとこの店は大型酒販店で、評判だったワインの品揃えを充実させるため、2年前に改装したんです。そこへ新たにコーヒー部門が加わりました。産地ごとに香りも味わいも違うワインと同じく、コーヒーもそう。常に14種類前後の豆を揃えていて自由に試飲できるので、「勉強に来ました」という同業者の方も頻りに来店されます。だから、カウンター内のサーブも気が抜けなくて(笑)



一見するとカフェの制服に見えるけど、違いますがね。ワイドスプレッドの襟ときっちりカフスボタンで留めた袖口に、お仕着せを拒否する並々ならぬ面構えを見ました。コーヒーの腕前にも、ファッションにも自信がありそう。



「和」とコーヒーって  
意外に合うんですよ。

あつぱれ!

## エルマーズグリーン コーヒーカウンター 中村佳代さん

大阪市から「生きた建築」に選ばれた、グランサンクタス淀屋橋の1階でお待ちしています。この建物や、併設している器や暮らしの道具の店[コホロ]の雰囲気そのまま味わってもらえるような、口当たりの良いコーヒーをハンドドリップでお淹れします。一押しは、急須でも美味しく入り、和菓子にも合う「コホロブレンド」。カウンター席でいろいろ飲み比べてみてください。作家の山本亮平さんに作っていただいた白いカップは、「たっぷり飲める」「手触りが好き」と好評です。



生成りのコットンの香りがするような、ナチュラルな雰囲気の方面ですね。たくしあげた袖とゆったりしたシルエットは、作業のしやすさを考えての選択でしょう。ポットを持つ手も基本通り。無理のない姿勢が、人柄を感じさせます。

# トウニン月報

2015年4月1日発行

昨年12月より、改修工事のために休館していた大阪市立東洋陶磁美術館が、この4月4日(土)より再オープン。

外壁を改修したほか、内部ではショップ内の細かいリニューアルに、休憩スペースの家具やサイン類が新調され、より利用しやすいように配慮さ

## 再開した東洋陶磁美術館で 武将が愛した茶道具展



右から「国宝 青磁鳳耳花生 銘萬聲」 南宋時代・13世紀  
和泉市久保物記念美術館蔵 展示期間:5月19日(火)~6月28日(日)  
「重要文化財 純金台子 皆目」 江戸時代・寛永16(1639)年  
徳川美術館所蔵 ©徳川美術館イメジャー・カブ/DNPpartcom  
展示期間:4月4日(土)~5月17日(日)  
「国宝 油滴天目」 南宋時代・12~13世紀 大阪市立東洋陶磁美術館蔵

【大坂の陣400年記念事業】  
特別展「黄金時代の茶道具—17世紀の唐物」  
期間/4月4日(土)~6月28日(日)  
時間/9:30AM~5:00PM(入館は閉館30分前まで)  
休館日/月曜日(5月4日は開館)、5月7日(木)  
入場料/一般1,200円  
問い合わせ/大阪市立東洋陶磁美術館 ☎06-6223-0055

れた細部の改装も行われたそうだ。

再開第一弾の特別展は、大坂の陣から400年を記念した「黄金時代の茶道具—17世紀の唐物」。千利休や古田織部などの茶人が台頭した16~17世紀は、茶の湯における黄金時代と呼ばれている。古くから中国の美術品が「唐物」としてもはやされる流れの中に、「侘び

に、侘び茶」や韓国磁器を重んじる新しい概念が生まれ、人々の美意識にも変化をもたらした。本展では、きらびやかさから「侘び茶」へ、流行をつくりあげた茶人たちの創意工夫をたどっていく。  
(江口由夏・本誌)

## 大学生たちのナビで 電車に乗って酒蔵めぐり



これは両エリアへのアクセスが便利な京阪電車と阪神電車が、日本酒好きな関西圏の大学生が集まった「関西学生日本酒連合」とコラボして実現したもの。この3月末から来年の2月にかけて、酒蔵とタッグを組んだイベントやシリーズ講座などで、沿線を盛り上げていく。

近年の日本酒ブームを受け、国内有数の酒どころである灘五郷と伏見・洛中・東山の魅力を紹介する「ぶらっと酒ナビ」プロジェクトが始まった。

ガイドブックを片手に酒蔵めぐりをし、灘五郷と伏見・洛中・東山で1個ずつスタンプを集めて応募すると、抽選で各酒どころの銘酒が当たるスタン

「ぶらっと酒ナビ」酒蔵めぐりスタンプラリー  
応募方法/ガイドブック裏面の台紙に、灘五郷(神戸~西宮)と伏見・洛中・東山(京都)の対象施設で1つずつスタンプを集め、必要事項とアンケートを記入のうえ、各施設に設置された応募箱に投函。  
開催期間/9月30日(水)まで  
ガイドブック設置場所/京阪電車・阪神電車主要駅  
問い合わせ/京阪電車お客さまセンター(伏見・洛中・東山)  
☎06-6945-4560 9:00AM~7:00PM(休日~5:00PM)  
阪神電鉄沿線活性化担当(灘五郷)  
☎06-6457-2136 9:00AM~5:00PM(平日のみ)

プラリーを開催中。学生目線で編集されたガイドブックは駅に設置され、大人が今さら聞けない日本酒の基礎知識や選び方など、酒蔵マップ以外も読み応えあり。ぜひゲットしよう。(江口由夏・本誌)

## 大阪倶楽部の公開講演会 講師は東儀秀樹さん



大正元年(1912)に創立し、大阪で最も古い紳士社交倶楽部である大阪倶楽部が公開講演会を開催する。大阪倶楽部では昭和27年(1952)から毎週水曜日に講演会を実施している。ふだんは会員限定だが、この公開講演会では会員以外の人でも参加するとのこと。

公開講演会は4回目となり、今回は雅楽演奏家の東儀秀樹さんが

講演を行う。東儀さんと言えば、丹精なマスクとわかりやすい解説で人気。テレビなどを通じて奥深い雅楽の世界を紹介している。

大阪倶楽部 公開講演会  
東儀秀樹「雅楽の価値観、僕の生き方」  
日時/5月13日(水)0:30PM~1:30PM  
会場/大阪倶楽部4階ホール  
募集定員/100名(無料) 問い合わせ ☎06-6231-8361  
応募方法/往復はがきに郵便番号・住所・氏名・電話番号・人数(2名まで)を記入し、下記の宛先まで郵送。4月15日の消印まで有効。応募者多数の場合は抽選とし、当落の結果を通知。  
〒541-0042 大阪市中央区今橋4-4-11  
大阪倶楽部[5/13公開講演会]事務局(島)

「OVE」が著者となって出版した『散走読本』という本のまえがきには「こんなことが書かれている。」「散走は、何かを見たり、食べに行ったり、探したりすることを、自転車『で』行うアクティビティ、あるいはライフスタイルです」

「散走」とは、「OVE」が提案する自転車の新しい楽しみ方。大切なのは自転車に乗ることそのものではなく、何かを見に行ったり、食べたり飲んだりするのを自転車「で」するということ。その時間はとても豊かなのだという。それを体験してもらおうと、こ



ちらでは毎月さまざまな散走ツアーを企画している。例えば4月は和歌山の九度山を走る「和歌山散走」、シヨップで開催するオランダフェアにちなみ、チューリップを見たりオランダ料理を食べに行くと「オランダ散走」、そして大阪市内の美味しいパン屋さんめぐ



## 自転車があれば、もっと日常は楽しくなる。

【OVE】 ●コンセプトシヨップ

実は「OVE」を運営するのは自転車部品メーカー大手のシマノ。自転車のあるライフスタイルを提案することで、より身近な存在として自転車を普及させたいという思いが込められている。そのためシヨップでは自転車を販売するのではなく、ウェアやライブラリーなど自転車と共に楽しむためのヒントになるものがちりばめられている。

自転車があれば、日々の時間がもっと豊かになる。そのためグッズやテクニクを発信するためのスペースが「OVE」なのだ。

約700冊の本や雑誌が並ぶライブラリーがあり、ソファでくつろぎながら読むこともできる。自転車に関わるウェアやアイテムのほか、「いいものを長く」のコンセプトの元に揃えられた器や文房具なども販売されている。また、サイクルコンシェルジュが常駐し、これからビギナー向けの自転車の選び方や服装など、自転車に関するさまざまな相談に答えてくれる。

「パン食い散走」と、企画が目白押しだ。

そうして自転車で乗っているうちにだんだんと行動範囲が広がっていく。次はあそこへ行ってみよう、これをしてみたいという興味がわき、外へ出るのが楽しくなっていく。自分の世界を広げるための道具として、自転車はびつたりというわけだ。

オープ  
ライフクリエーションスペース OVE 中之島  
●中之島フェスティバルタワー1F

自転車のある生活をさまざまな形で発信するコンセプトシヨップ。その代表的な試みである散走は毎月2〜3回のペースで開催。自転車を持っていなくても貸してくれるので、気軽に参加してみたい。詳細はウェブや店頭で確認を。会員制度もあり(年会費1,000円)、本の貸出や散走の優先予約制度などの特典がある。☎06-6223-2626 10:00AM~8:00PM 月曜休(祝日の場合翌日休)



祝祭へようこそ。

FESTIVAL  
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>  
提供/株式会社 朝日ビルディング



# 大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です！



## 『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店] 旭屋書店 梅田地下街店/カベラ書店/紀伊國屋書店 梅田本店・グランフロント大阪店/紀伊國屋書店 本町店/ジュンク堂書店 大阪本店・梅田ヒルトンプラザ店・天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/文教堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など] アイスボット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立科学館/大阪市立生涯学習センター/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/川の駅はちけんや/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪シティキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/少彦名神社/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メビック扇町/立命館大阪オフィス/龍谷大学大阪梅田キャンパス [店舗・医院など] アンドール 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前料理 志津可/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/大西洋服店/OOO(オー) /カセット/喫茶カンターロ/喫茶SAWA/グラスサイト中之島/黒門さかえ/コモカフェ/The Court/サトウ花店 中之島本店/サメロディ/シアトルベストコーヒー新聞ビル店/じろう亭/Girond's JR/心齋橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン大阪証券取引所店/タビエスタイル/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナシヤーン/パストレーラ/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/FOLK/プレムハウス/ミニジロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店] 紀伊國屋書店 京橋店/ジュンク堂書店 難波店/福島書店/柳々堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など] 大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立中央図書館/大阪府立江之子島文化芸術創造センター/川口基督教教会 [店舗・医院など] あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパル/大阪シティ信用金庫 江戸堀支店/御舟かもめ/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワナ/バルビコ/ホステル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂/Books 呼文堂/水嶋書房 千早はーモール店/大阪狭山市立図書館/大阪市立難波市民学習センター/大阪大学企画部広報・社学連携事務局/大阪大学 21世紀懐徳堂/大阪大学本部/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/恵文社 一乗寺店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/川のほとりの美術館/納屋工房/タバーン・シンブロン/百練/奈良県立図書館報館
- 東京 往来堂書店(千駄木)/BOOKSルーエ(吉祥寺)/B&B(下北沢)/隣町珈琲(荏原中延)

## ◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

## ◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

## 次号予告 中之島図書館はすごかった。

リニューアル工事のために一時閉館中だった大阪府立中之島図書館が、4月から再び開館。その歴史と役割についてあらためて取り上げてみよう。

●『月刊島民』vol.82は2015年5月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)  
 編集・発行/月刊島民プレス  
 若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)  
 松本 創 江口由夏 大迫力(編集集団140B)  
 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階  
 Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341  
 制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)  
 デザイン/山崎慎太郎  
 表紙イラスト/奈路道程  
 印刷/佐川印刷株式会社

いっしょに、  
歩きませんか。

中之島けい子  
 職上インクライン  
 (京都市営地下鉄職上駅下車)

# 春は桜の、おけいはん

桜の名所には、京阪電車で。



★ **淀川河川公園 背割堤地区**  
 八幡市駅下車



★ **岡崎公園**  
 神宮丸太町駅・  
 京都市営地下鉄東山駅下車



★ **山科疏水 (櫻宮湖疏水)**  
 京阪山科駅・  
 京都市営地下鉄山科駅下車

京阪特急“進化系”/  
**快速特急 洛楽**

京橋駅・七条駅間  
 ノンストップ!

(同区間を約35分で運転)

運転区間：淀屋橋駅⇄出町柳駅

運転期間：3/21(祝・土)～  
 5/6(休・水)の土・日・祝・休日

★ **便利でおトクなチケット発売中!**

◎ お問い合わせは…

京阪電車お客さまセンター Tel.06-6945-4560  
 平日：9時～19時 土・日・祝・休日：9時～17時

京阪の  
おけいはん人。

[www.okeihan.net](http://www.okeihan.net)

Facebook

@c.okeihan